

「いつもの道」

今日は、あの利用者様のご自宅への訪問日。

毎月通る昼下がりのこの道で、いつも考えることがある。

「ドアを開けたときは笑顔が良いかな・・・。」

「楽しい話題を用意したほうが良いかな・・・。」

「何かアドバイスできることはあるかな・・・。」

いつも答えの出ないまま、通り過ぎるこの道。

いつも答えの出ないまま、ご自宅にたどり着いてしまう。

小さな部屋で二人きり、小さなテーブルを挟んで目を見合わせながら、僕は、いつもご本人の思いのだけを聴いているだけ。

でも、この小さな部屋に、ほんのひととき差し込む光のようなご本人の笑顔が、答えのない僕を包んでくれる。

そして、今日もまた、昼下がりのこの道を通り、答えの出ないままご自宅のドアをノックする。

「こんにちは。調子はどうですか。」



(2017年11月)